

# **HPC/PF ポータルサブシステム GUI の 機能改修作業 作業報告書**

**2015 年 3 月 20 日**

**株式会社イマジカデジタルスケープ**

# 目次

第 1 章	はじめに	2
第 2 章	GUI の修正に関する作業内容	3
2.1	小さなスクリーンでの利用を想定した GUI 再デザイン	3
2.2	プロジェクトエディタ画面上のボタンの整理	3
2.3	メイン画面における外部アプリケーション起動ボタンの整理	3
2.4	プロジェクトエディタ画面における SAVE, STOP ボタン押下効果の改善	3
2.5	プロジェクトエディタ画面遷移の検討	3
第 3 章	機能追加に関する作業内容	4
3.1	プロジェクトアーカイブの解凍機能追加	4
3.2	プロジェクトエディタ画面, 及びファイルブラウザ画面におけるファイル一覧の自動更新	4
3.3	ファイルブラウザ画面転送ファイルの上書き確認及びファイル名変更機能の実装	5
3.4	リモートジョブ実行時におけるリモートマシン上の作業ディレクトリ自動作成機能の実装	5
第 4 章	データ定義等の設計に関する作業内容	6
4.1	プロジェクトのメタデータ定義	6
4.2	CIF の入出力ファイル情報を利用したワークフロー駆動用 API の設計	6
4.3	ワークフローファイルの名称統一	6

## 第 1 章

# はじめに

本書は HPC/PF ポータルサブシステム GUI の機能改修作業の作業報告書である。2014 年 12 月に開催したセミナー参加者より指摘された操作性に関する要望や、その他の機能向上などを目的として行った改修作業について記述する。

## 第 2 章

# GUI の修正に関する作業内容

GUI の修正に関する作業内容は以下の通りである。

### 2.1 小さなスクリーンでの利用を想定した GUI 再デザイン

通常のノート PC やデスクトップ PC においてマウス操作を前提とした場合に使い勝手が最適化されるように GUI の再デザインを行った。具体的には、ホーム画面、エディット画面において、画面解像度が 800x600 程度の小さなスクリーンであっても、マウス操作を前提とした閲覧及び編集が可能な GUI デザインに変更した。

### 2.2 プロジェクトエディタ画面上のボタンの整理

従来の「RUN」ボタンを廃止し、ワークフローを実行するためのボタンとして「RUN」ボタンを新たに配置した。また、プロジェクトエディタ画面において、ファイルが選択された場合に、設定ファイルに予め記載している拡張子とアプリケーションの対応関係に基づいて、アプリケーションの起動ボタンが表示されるよう修正を行った。

### 2.3 メイン画面における外部アプリケーション起動ボタンの整理

メイン画面上の「FXgen」「PDI」ボタンを廃止した。また、2.2 の対応により、プロジェクトエディタ画面において、対応する拡張子のファイルが選択された際に、「FXgen」「PDI」などのアプリケーションの起動ボタンが表示されるようになった。

### 2.4 プロジェクトエディタ画面における SAVE, STOP ボタン押下効果の改善

プロジェクトエディタ画面の SAVE, STOP ボタンに関して、デザインの修正及び押下効果の改善を行った。具体的には、SAVE ボタン押下時に、保存されたことを示すポップアップメッセージを表示するように修正を行った。また、STOP ボタンについては、RUN ボタンと対の関係であるため、RUN ボタン押下時にのみ STOP ボタンを表示し、STOP ボタンの色を赤く表示することで、視覚的に分かりやすい動作を実現した。

### 2.5 プロジェクトエディタ画面遷移の検討

プロジェクトエディタ画面のファイル一覧をツリー表示に変更、ケースを開いた場合においても他のタブウィンドウに遷移せずに元のプロジェクトウィンドウ内で操作が行えるようにした。また、ログ表示、エディット画面、プロジェクト情報画面を、同一ページ内でボタンによって切り替えられるように修正した。また、左ペインとエディタ画面との間にセパレータを配置し、左ペインの幅をセパレータをドラッグすることで可変にする対応を行った。

## 第 3 章

# 機能追加に関する作業内容

機能追加に関する作業内容は以下の通りである。

### 3.1 プロジェクトアーカイブの解凍機能追加

KDB からダウンロードしたプロジェクトアーカイブを GUI 上から選択、解凍し、プロジェクトとして開く機能を実装した。プロジェクトを開く際のフローは、図 3.1 のようになる。

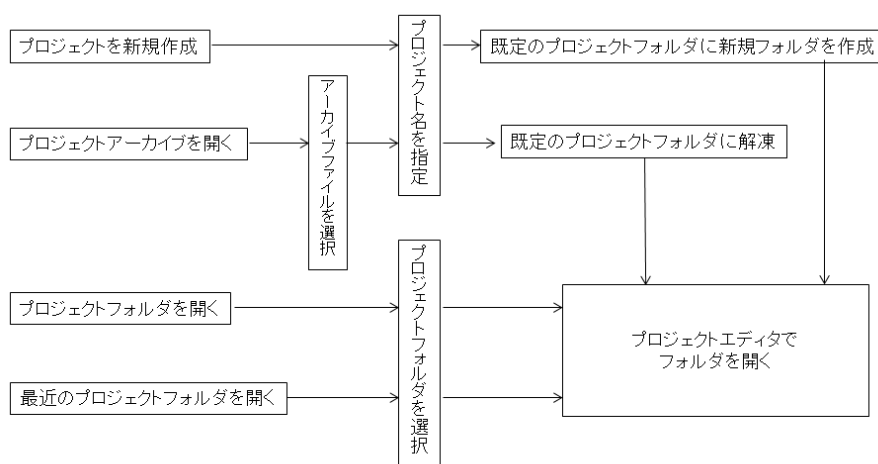


図 3.1 プロジェクトを開くフロー

アーカイブファイルの解凍では、プロジェクトワークフローのファイル `pwf.lua` がある階層を最上位として、`tar.gz` 圧縮されたファイルに対応している。プロジェクトアーカイブを開くメニューから、`tar.gz` ファイルを選択し、プロジェクト名を指定して開くことで、既定のプロジェクトフォルダに入力したプロジェクト名で新規にフォルダが作成され、`tar.gz` ファイルが作成されたフォルダ以下に解凍される。

### 3.2 プロジェクトエディタ画面、及びファイルブラウザ画面におけるファイル一覧の自動更新

プロジェクトエディタ画面左ペイン及びファイルブラウザ画面において、表示されたフォルダの内容が更新された場合に、それを画面上にも自動反映する仕組みを実装した。

### 3.3 ファイルブラウザ画面転送ファイルの上書き確認及びファイル名変更機能の実装

ファイルブラウザ画面において、転送先に同名ファイルが存在した場合に上書き確認する機能を実装した。また、ファイル名を変更する機能を実装した。

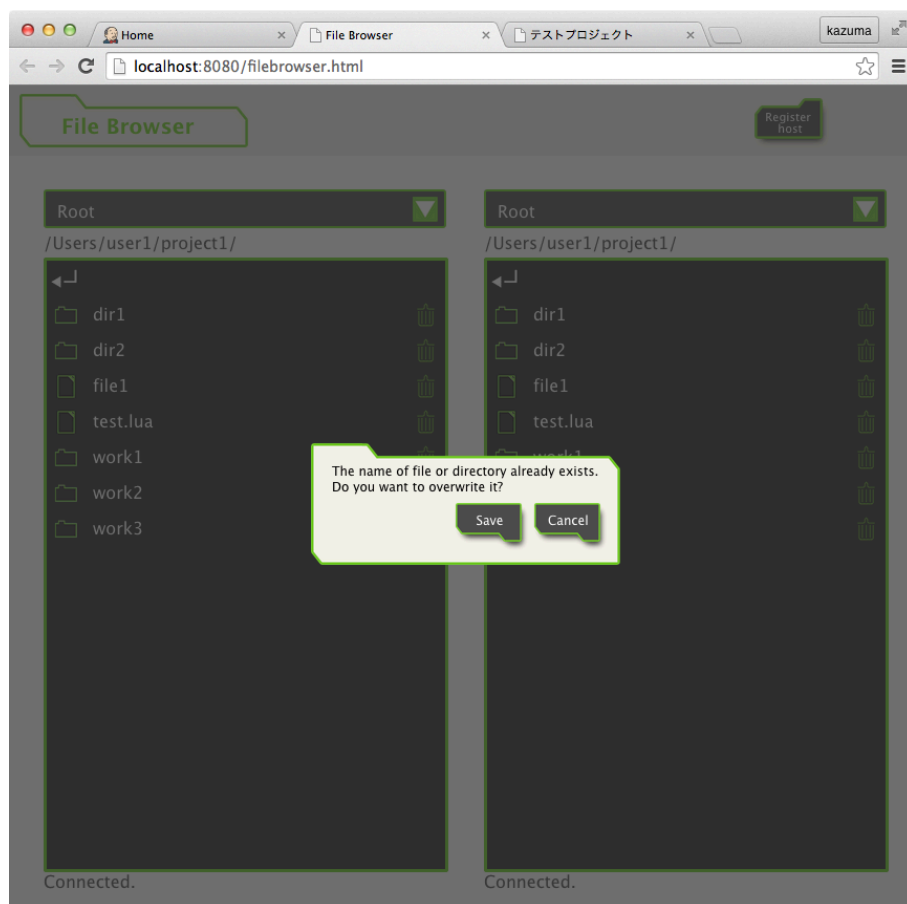


図 3.2 上書き確認ダイアログ

### 3.4 リモートジョブ実行時におけるリモートマシン上の作業ディレクトリ自動作成機能の実装

TODO

## 第 4 章

# データ定義等の設計に関する作業内容

データ定義等の設計に関する作業内容は以下の通りである。

### 4.1 プロジェクトのメタデータ定義

TODO

### 4.2 CIF の入出力ファイル情報を利用したワークフロー駆動用 API の設計

TODO

### 4.3 ワークフローファイルの名称統一

プロジェクトワークフローのファイル名は, pwf.json, ケースワークフロー名は cwf.lua に統一した。